

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600155		
法人名	社会福祉法人ひとつの会		
事業所名	グループホーム自由の杜		
所在地	防府市大字大崎801-1		
自己評価作成日	平成24年3月31日	評価結果市町受理日	平成24年7月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年4月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様お一人おひとりの想いや個性を尊重し、居心地よく安心して過ごされる事が出来るように、役割を探しながら、生き生きとあたりまえの生活を送っていただけるように支援している。毎日笑って過ごせるように毎月行事や外出も行い、たくさんの思い出づくりを入居様とともにスタッフも共有できるように努めている。気軽にご家族や知人の方にも来ていただければ、家庭的な雰囲気作りと、季節感が感じられるように毎月装いを変えている。また併設の施設との連携を常にとりながら、いろいろなイベントや行事も行い、他の入居者様、スタッフとの交流も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者が新たな地域の人と豊かな人間関係が保てるよう、交流の機会の工夫に取り組んでおられ、地域にスムーズに溶け込んでおられます。日々の散歩コースを設けて日常の散歩をされたり、地域の行事である夏祭りや地元神社の祭りなど積極的に参加しておられます。事業所主催の夏祭りには地域の方の参加もあり、小学生や中学生の来訪もあり、相互に交流をしておられます。散歩や買物、畑作りで出会う方々に親しく声をかけてもらったり、季節の花の差入れがあるなど日常的に地域とのぬくもりのあるつきあいしておられます。馴染みの人との関係継続の支援の一つとして知人や友人の来訪時には、必ず写真を撮り、本人のアルバムや居室への掲示だけでなく、来訪された方や家族にも利用者との交流風景、とくに喜びあふれた笑顔の写真を渡しておられます。これにより、再訪問に結びつくように支援に努めておられます。職員一人ひとりの意見や提案を埋もれさせることなく、大切にしておられ、サービス向上に活かされています。記録物の改善に積極的に取り組んでおられ、職員の気づきや提案を記録する「温故知新」、事業所での1日の介護状況が1枚で分かる「24時間シート」等、職員の意見をもとに改善、工夫をしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は普通の生活をしていただきたいとの思いから人としてのあたりまえの表情喜怒哀楽を出せるように外出や行事、レクリエーション等入居者様、ご家族、スタッフと一緒に想いでを作り、なじみの関係づくりを志している。	職員全員でつくった理念である「喜怒哀楽」を法人の理念とともに玄関に掲示し、楽しみや喜びのあるプランづくりを心がけ共有している。そこに暮らす人々とのふれあい、普通の暮らしができるよう散歩コースや畑を作るなどして、地域の方々との交流が深まるよう努め、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域を知っていただけるよう散歩をしていたり、散歩コースが出来ている。コース内の神社や施設道路側の草取りも出来る方にはお願いをして、一緒に行き、近隣の方とも触れ合えるように取り組んでいる。	散歩コースを設けて日常の散歩をしたり、草とりや畑を作るとともに、地元で開催される夏祭りや神社の祭りへ積極的に参加し、地域の人と交流している。ボランティア(懐メロ、フラダンス、尺八等)や中学生の吹奏楽部、小学生の職場体験などでの来訪があり、幅広く交流している。事業所主催の夏祭りにも地域の人の参加があり関わりが深まっている。散歩や買物で出会う人や畑作りで声かけや、季節の花をもらうなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の認知症啓発事業の委託を受け昨年度2回自由の杜さろんとして様々なテーマについてご説明をさせていただいた。また外部からの施設見学希望にも応じ。施設の特色等をご説明を行い理解をしていただけるように努めている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	開設当初から外部評価のことについてはミーティング等で説明をし、グループホームでのケアの仕方やかかわり方などをミーティングで話し、記録の重要性も理解をし、きちんと責任を持って記入するようにしている。	評価の意義を理解し、職員全員が、自己評価に取り組んでいる。管理者は評価への理解が深まるよう会議で各項目について説明し、意見をもらった後まとめている。全職員の自己評価の取り組みにより、ケアサービス向上のための正確でタイムリーに判断できる記録の重要性に気づき、その改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を行い毎回いろいろな報告を行っている。主に行事報告やヒヤリハット、事故報告については毎回報告をし、その時にでた意見等を生かせるように取り組みを行っている。	利用者家族、自治会長、民生委員、小学校PTA会長、市介護保険課、地域包括支援センター等のメンバーで、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況やヒヤリハット・事故、行事、活動状況を報告後、意見交換を行い、地域の理解、協力が得られよう協議している。事業所主催行事への協力や地域の子供たちとの交流機会の拡大、火災に関する地域との連携等の活発な意見交換をして、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター担当者、介護保険室担当者には運営推進会議に委員として出席していただき、情報交換等行っている。また、随時市役所担当者へ報告相談するなどの体制をとっている	市担当課や地域包括支援センターとは、運営推進会議の他、電話や直接出向くなどして、事業所の状況や不明点の相談をし、助言を得る他、情報提供を行い、連携を深めて日頃から協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜22時30分までは施錠はせず、センサー音にてスタッフが確認できるように工夫している。スピーチロック等各スタッフが気を付け入居者様に対して自分自身が不穏の原因にならないように考え対応するよう努めている。	「身体拘束をしないケア」についてマニュアルがあり、それに基づいた研修を実施し、職員は身体拘束の内容や弊害について十分理解している。日頃の言葉づかいについては特に留意している。日中、玄関には施錠をしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者も業務に多く関わり、入居者様側の立場からの意見を出し、虐待の防止に努めている。またミーティングの際にはよくありがちな虐待について例を挙げ自分自身を振り返ってみるようになっている。気になることなどは月目標として取り組みを行っている、		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での定期合同研修や法人の定期合同研修へ職員が参加し、ユニットミーティングにて伝達講習を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結はご家族に來設していただき説明を行い質問に答えられる体制をとっている。日常的にも利用者報告の電話連絡や來苑時にご意見や質問をいただきそれについてご理解を得られるよう説明を行っている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各スタッフが面会時には必ずご家族に状況の報告をするようにしてご家族の方の要望があれば改めて管理者がきちんとお話を伺うようにしている。	相談、苦情の受付体制や第三者委員、担当者を明示し入居時に説明している。家族の面会や電話、手紙、運営推進会議等に意見や要望を出しやすいよう工夫し、出された意見や要望は職員間で共有し運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを行いお互いにいろいろな意見を出し合い提案は検討して変更後経過を見ていくようにしている。その他日々提案が出来るように書式を作り活用している。	管理者は、ミーティングの場で直接聞く機会を設けるとともに、日頃から職員がいつでも気軽に意見が言えるよう雰囲気作りを心がけ意見や提案を聞いている。職員からの意見で正確な記録をするために、記入様式「温故知新」の考案や「24時間シート」を作成する他、利用者の癒しとなる「犬を飼う」ことや地域や自然に馴染むための「外出」の機会の拡大等多くの意見を反映させ、サービス向上に活かしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週1回の統括会議において現状の報告を行い、職場関係における改善提案や具体策などについて法人幹部と話し合いを行っている。また、職員に対して定期的または随時の相談体制をとっている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には出来るだけ参加させていきたいと思っている。また、管理者は職員と出来るだけ情報交換が持てるようにし、いろいろなアドバイスをし情報を提供できるように心がけている。	外部研修は経験年数や段階に応じて勤務の一環として受講できるよう配慮している。受講後は復命報告をして閲覧できるようにし、全職員が共有している。定期的な法人研修や毎月の併設事業所との合同研修、事業所内研修、資格取得の歓奨等、職員が意欲的に学べるよう研修機会を多く確保している。計画に基づいた研修を実施するとともに、日々の実践の中で体得できるよう管理者が指導者となり、働きながら学べるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は同法人内のグループホームでの数日間の実践研修を受け、開所後、その体験を生かして業務に就いている。またグループホーム協会の勉強会を受け、当ホームでの開所からの報告や施設見学を受け入れ、意見交換も行った。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時にはご自宅へ訪問し、現状を伺い、ご本人やご家族からの要望等細かくお聞きし、不安にならないように説明を行っている。また入所後も特別に面会時間は設けず、いつでもどうぞとお願いをし面会も多く、その都度状況を見ていただけるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	閉鎖的にならないように、面会の時間を初めから特に決めないようにし、夕方でも来れる時間にとお願いをし、最初から多くの面会をしていただけることでのいろいろな希望や状況報告を密に行えた。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス内容の変更時にはご家族には説明をし、今現在のご本人の状況を報告し理解していただけるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る力を把握し、いろいろなことを役割として出来るようにしている。また、こんなことが出来るかもと思えることは機会を作り行っていただけのように取り組んでいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を多く来ていただけるようお願いをし、何か問題が起きた時にも、まずはご本人の気持ちを考え、その都度ご家族には対応の変更もお伝えしていくことを怠らないように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方の訪問時には写真をお撮りし、居室内に掲示し、忘れられないように取り組んでいる。また、スタッフも一緒に会話を持ち、情報を収集できるように努め、また来ますと言っていただけるように関わりを保てるよう取り組んでいる。	家族や友人、知人の来訪を歓迎するとともに、家族の協力を得て盆、正月の帰宅、外泊の支援をしている。馴染みの美容院の利用や商店での買物、地元の行事への参加、電話や手紙の支援等、本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。特に知人の来訪時には写真を撮り、アルバムや居室に掲載して、再訪問に結びつくように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同での生活の場の中で、居場所づくりを考えながらいろいろな集団レクや個別レクを行い得意なこと苦手なことの把握に努め、孤立されないように会話が皆さんで持てるよう気を配っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点では利用終了の方はおられないが終了後も相談や支援に努めていくように考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方とスタッフは多く会話を持ち、聞き取った情報や気づきを皆で共有し、常に希望に添えるように努めている。まずは本人の気持ちを優先し、どのようにしたら希望に添えるのかをスタッフ同士が意見を出しあうようにしている。	入居時に本人の趣味や嗜好、生活歴、本人の思いや意向を把握し、その気持ちに添えるように支援している。日常の関わりの中で聞き取った利用者の思いや意向につながる言葉をそのまま経過記録に記録し、介護計画に反映させている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴を考慮し、生活環境が変わったことに対して不安にならないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りをし、変更事項や注意点は共有している。また詳細に記録を記載できるようにし、1日何をしてどのように過ごされているのかを各スタッフが把握できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各スタッフが担当を持ち、毎月ご家族には状況の報告を行っている。また、面会時にはスタッフから現況の報告を直接行い、今を把握していただけるよう努めている。チームでケアを行っていることを認識し、様々な意見やアイデアが出せるような書式も活用して現状に沿った支援ができるように努めている。	本人や家族、主治医、訪問看護師から意見を聞いて、3ヵ月ごとにケアカンファレンスを行い、職員や関係者と話し合い介護計画を作成している。3ヵ月毎にモニタリングを実施し、介護計画の見直しを行う他、利用者の状態に変化があればその都度、見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、経過記録、申し送り予定表(24時間シート)、排泄表、等入居者様の日々の記録を詳しく記入するようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	業務の改善案、ケアの改善案を、その都度スタッフが発案や提案し、確認の上、変更していけるように取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ホーム近くにある散歩できる所に希望される方には一緒に散歩していただいたり、畑仕事をされておられたら、傍で見せていただいたり、おやつなどの買い物など定期的に利用しなじみの場所づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	1か月に2回の往診をお願いし、健康状態を管理していただいている。また、訪問看護も毎週来られ、気になることなど相談したり、スタッフにも状況に応じた注意点などアドバイスをしてもらい、必要なら医師にも報告してもらって、指示をもらえるようにしている。	医療連携体制を取り、かかりつけ医の月2回の往診と訪問看護師による週1回の健康チェックが行われている。往診時や他の医療機関受診時は職員が送迎を含めて対応し、適切な医療を受けられるように支援している。受診時には受診動機や結果が記入できる事業所独自の受診記録票を持参し、受診後はこの記録票をもとに、家族や主治医、訪問看護師、職員が結果の共有を図り支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週に1度の訪問看護の記録を作り、各スタッフの気づきも書き込める欄を設け、訪問時に相談し看護の方からも記録に記入していただくようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には何度かご本人の状況を把握できるよう面接をする。退院前には入院中の状況や、今後の注意点を担当医または看護師に情報提供をしてもらえるようお願いをし、ご本人の退院後の安定した生活に生かしていく。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にはご本人やご家族とお話しを、また、入居後も現状報告を常に行いながら、状況に合わせて相談し、ご理解いただけるよう取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の方針について説明し、重度化した場合は本人や家族と話し合い方針を共有し、希望に応じて対応している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや入居者の方の事故防止案の書式にての提案を随時提出し、その都度検討し改善を行えるようにシステム作りをしている。	「ヒヤリハット・事故報告書」に発生原因、状況、再発防止等を記載し、全職員に供覧するとともに運営推進会議に報告し、一人ひとりの事故防止に努めている。通報訓練の実施や、消防署職員による救命救急法や看護師による骨折、意識不明、誤嚥、転倒等の応急手当等の研修を実施している。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者参加で避難訓練を定期的に行っている。また火災については避難訓練日前に防災委員がどのようにしたらよいかを各スタッフに話すように努めている。	法人内にある防災管理委員会による避難訓練の研修や消防署の協力を得て、火災、風水害を想定した避難訓練、消火訓練、通報訓練を年2回、利用者とともに実施している。今後は風水害も含め、災害時の対応について家族や地域の協力が得られるよう運営推進会議で話し合っている。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団の中でご本人が恥ずかしいと思われないように声掛けは気を付け、傍により話をするよう努めている。また、認知症の症状により、その方の状況にあった呼び名をご家族にもお話しし、安心して生活していただけるように心掛けている。	マニュアルを基に研修を実施し、利用者一人ひとりの尊厳を大切にされた言葉かけや態度に気を付けるとともに、常に誇りやプライバシーを損ねない対応に心がけている。特に呼称には留意し、家族と相談し、本人にふさわしい呼称で呼ぶこととしている。不適切な対応があれば管理者が注意、指導をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でレクリエーションなど集団、個別の過ごし方の選択肢を多く出来るように工夫している。お茶はご自分で毎日選択していただくようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きたい時に起き、今日はどうかを自分で考え、できない方でも何かしら一緒に過ごせるようにいろいろなことを日々の状態にあわせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1か月に1回は美容院の訪問をお願いをし、その場で希望を受け、髪形や毛染めなどご自分で決めていただけるようにしている。また外出時には好みの洋服を着ていただき、化粧も必要な方はしていただいている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けはお願いをし、出来ること、したいことをお手伝いをしていただいている。また昼食を入居者と一緒に作る日を設け、入居者とスタッフがいろいろなことを話しながら作り一緒に食べるようにしている。	食事は三食とも同一法人の併設施設の厨房からの配食である。利用者は盛り付けや後片づけ、茶碗を洗う等している。月に1~2回は昼食づくりの日があり、この日は、献立から、買物、調理、後片づけまで利用者一人ひとりのできることを職員とともにしている。おでんの日、お寿司の日、バイキングの日を設けて家族にも参加してもらったり、花見弁当を作り戸外で食べたり、ソーメン流しをするなど、家族の参加や場を変えて楽しみながら食欲が増すように支援している。利用者の作った季節の新鮮な野菜が食卓に上る等、常に楽しみな食事となっている。職員は利用者とともに食卓を囲み、会話を弾ませたら和やかに食事ができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が把握できるように記録を取り、常に気を配り、不足気味の場合は随時お勧めをし補えるように努めている。また夜間にもお聞きし必要ならお出しするようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け誘導や見守りを行っている。また入れ歯の洗浄や消毒等も行うことにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	声掛け誘導で汚染を防げるように排泄状況を一目でわかるような記録にし、きちんとトイレで排泄が出来るようにスタッフが気を配っている。	利用者の排泄パターンを把握しサインを見落とさないよう自尊心を傷つけないよう言葉かけに配慮し、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操は午前午後といろいろな体操をその日の担当者が行ったり月の体操や室内レクなどいろいろなことに取り組んでいる。排泄状況を確認し、水分はお茶ばかりではなく、便通の良くなる素材を使った飲み物やおやつなど、その日に考え提供している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は時間や順番は特に決めておらず、安全に行えるように考えお声をかけ承諾いただき、毎日希望されても入浴していただいている。拒否された方はなぜかを考え次回にはどのようにしたら入っていただけるのかを、検討し2日に一度は入っていただけるように努めている。	入浴時間は13時から17時の間とし、希望すれば毎日でも入浴できる。安全に配慮するとともに本人の希望を聞きながらゆっくりと入浴できるよう支援している。入浴をしたくない場合は、声かけの工夫やタイミングを見る等、無理強いをせず、個々に応じた入浴が楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室 リビングでの休息はお一人おひとり自由にしておられ、体調がすぐれない方にはお声掛けをし居室にてゆっくり横になっていただけるようにし、時間を見て居室へ訪室し、睡眠の状況の把握に努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフにも薬のセットの役割を持ち、薬に関する情報をすぐに見れるようにファイルにとじ、目で見える機会があることで、理解をしながら、その方の変化や状態を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの役割が持てるように1日の生活のリズムを考え、何事もスタッフで行わず一緒にを考え関わりを持つように努めている。	日記を付けたり、テレビを見る、歌をうたう、折り紙、習字、カラオケ、紙工作、生活リハビリ(計算ドリル、間違い探し、パズル、ボール遊びなど)等の楽しみごとや、洗濯物を干したり、たたんだり、カレンダー作り、食事の準備、下ごしらえ、調理、盛り付け、後片づけ、買物、野菜作りなどこれまでの生活歴や趣味を考慮した活躍できる場面を多くつくり、一人ひとりが喜びのある楽しい日々が過ごせるよう支援している。併設施設と協働で行う季節行事(誕生日会、雛祭り、敬老会、クリスマス会、餅つき大会等)は利用者や家族にとって楽しみ事の一つとなっている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせての施設外への散歩を希望に添えるように努めている。また誕生月にはスタッフと事前に話し合い、個別に外出していただいている。	周辺の散歩や買物に出かけたり、地域の夏祭りや神社祭りに出かけ、地域の人に出会えるよう外出支援をしている。季節の花見や観光(毛利庭園、徳山動物園、錦帯橋、萩シーマート、柳井フラワーランド等)に出かけている。誕生日の個別外出や家族と外食や旅行に出かけるなど利用者の希望に添って外出支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持っておられる方もあり、外出時にはご自分で好きなものを買っておられる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればかけていただくようにしている。また、手紙も定期的にかける方は直筆にて書いていただき、出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設らしくない家庭的な雰囲気を感じていただけに季節ごとに装いは変化を持たせるようにし、入居者の方にお手伝いをしていただき季節の壁画を毎月制作し掲示している。また、ホール内も家具やソファで広さを感じられないようにし、バリヤを作ることで個々の歩行の助けになるように配置をしている。	共有ホールは広く明るく、生活感があり、中央には台形の机が配置してあり、人数により組み合わせが自由にできるようになっている。テレビの前や外庭の見える場所にはソファや椅子が置いてあり、それぞれが思い思いの場所でゆったりと過ごせるよう工夫している。対面式の台所は利用者と語りながら共に食事の準備を行い、生活感が感じられるようになっている。壁面には利用者の共同作品である季節の紙工作や写真、手づくりカレンダーなどが飾っており、温かい、安らぎのある空間となっている。トイレ、洗面所、浴室は清潔、安全に整頓してあり、室温、換気に留意し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルがあればその都度配置等を考え、集団で生活されることの苦痛や不満解消に気を配っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具はご自宅から持ってきていただき、ご自分で好きなように配置をしていただいている。また写真や創作物も居室へ飾っていただけるようにしている。	洋服掛けスタンドや和箆筒、衣装ケース、テレビ、位牌、時計、サイドテーブル、クッション、衣類、洗面用具等、使い慣れた物を持ち込み、家族写真や自作品の紙工作、絵画、置物等好みの物を飾り、安心して居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札と行事や他で撮影した写真随時張替え、ご自分の部屋を探せるようにし、トイレも案内板を張りご自分で出来るだけ移動していただけるように工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム自由の杜

作成日: 平成 24年 7月 25日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	入居者様の急変時に的確な対応が全スタッフが出来ることは現時点では難しいと思われる。特に夜間は1人のスタッフで9名の方を観る体制なので、どこまで迅速に対応できるかが問題である。	すべての職員が緊急時の対応について適切な対応が出来るように学習し、様々な項目に対してマニュアル作成を行う。	応急手当や初期対応の定期的な訓練の研修を行い、迅速な対応をすべての職員が行えるようにしていく。	6～12ヶ月
2	36	火災訓練や水害などの災害時の訓練は施設内では定期的に行ってはいるが、地域の方と一緒にには行っておらず、いざという時にうまく連携は取れないのではと思われる。また地域の方も施設内におられる方の状況や建物内の構造等は知っておられない方も多と思われる。	地域の方にご理解いただき、協力体制を構築していく。	地域の方と交流が持てるように、地区の行事にも参加させていただき、施設にも立ち寄っていただけるように行事等を行い、入居者の方、スタッフと顔なじみの関係づくりに努め、ご理解いただきながら協力体制を考えていく。	6～12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。